

### 2-11. 回復状況とその影響要因

被害からの主観的な回復度を基に、回復に及ぼす要因とその影響等について分析する。

#### (1) 事件との関係

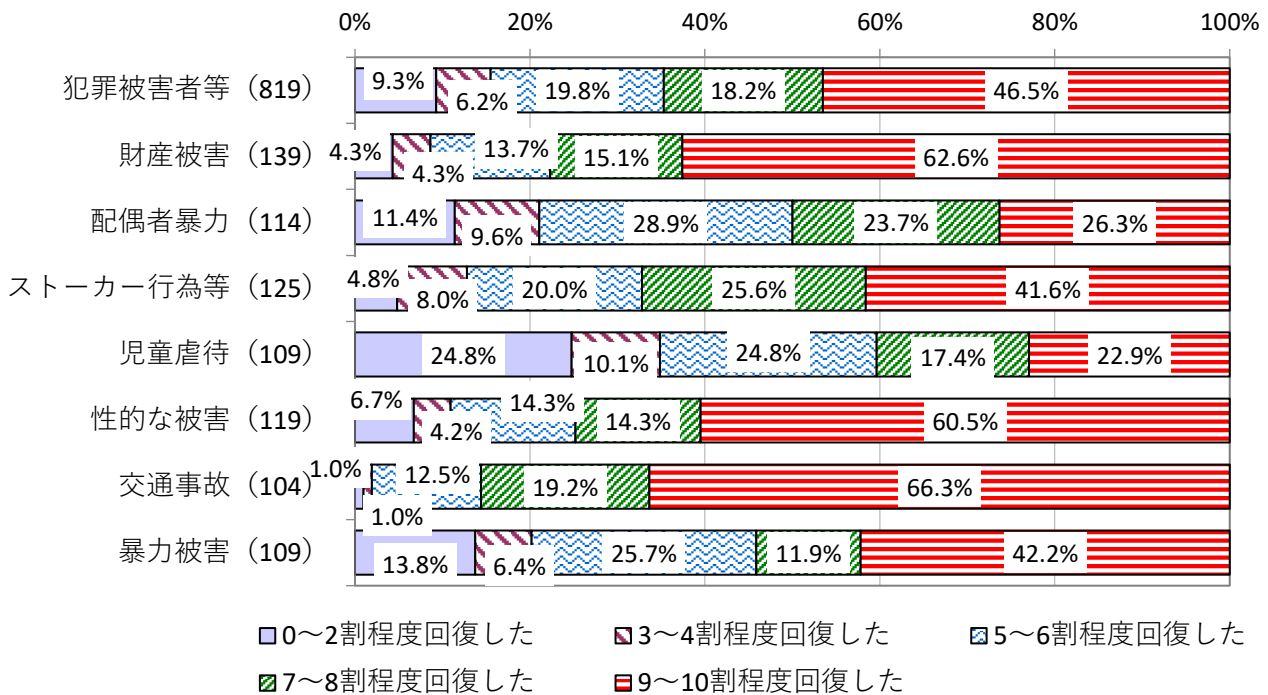
被害からの回復度（犯罪被害者等の主観的意見）について、犯罪被害類型別にみると、半分以上回復した（「5～6割程度回復した」と「7～8割程度回復した」と「9～10割程度回復した」の和）との回答比率は、交通事故（98.0%）が最も高く、財産被害（91.4%）、性的な被害（89.1%）が続いており、最も低いのは児童虐待（65.1%）である。また、児童虐待、暴力被害、配偶者暴力では、「0～2割程度回復した」との回答比率がそれぞれ24.8%、13.8%、11.4%と、他の類型に比べて高くなっている（図表11-1）。

被害の継続期間別にみると、配偶者暴力、児童虐待では、半分以上回復したとの回答比率は、「10年以上」が58.8%であるのに対し、「1年未満」が94.9%と高くなっている。また、財産被害、ストーカー、性的な被害、交通事故、暴力被害では、半分以上回復したとの回答比率は、「1年以上」の場合が73.3%であるのに対し、「1回限り」の場合は93.1%と高くなっている（図表11-2）。

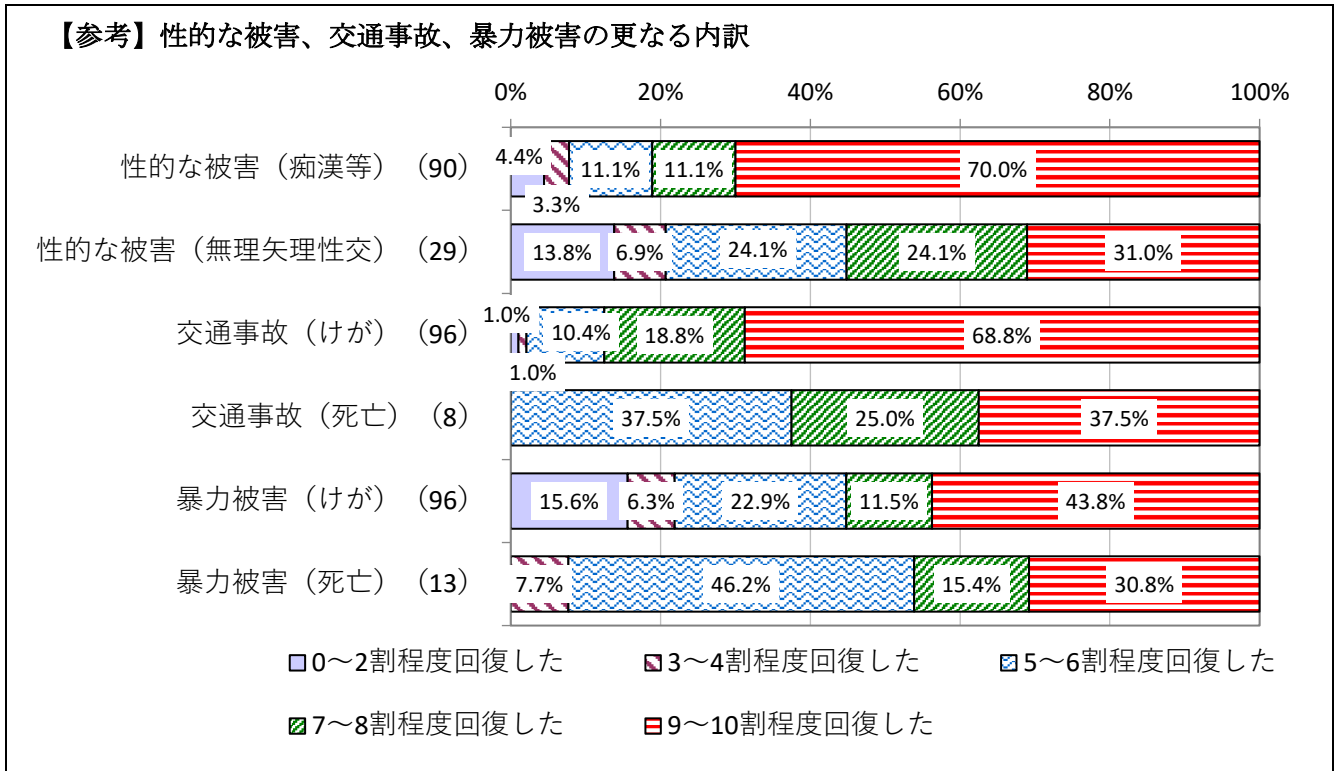
被害の時期別にみると、半分以上回復したとの回答比率は、「3年以内」では66.3%、「3～10年以内」では85.4%、「それ以前」では87.4%と、被害から期間が経過するほど高くなっている（図表11-3）。

被害時の年齢別にみると、半分以上回復したとの回答比率は、0～6歳（61.5%）、7～12歳（77.3%）が他の年齢に比べて低く、19～22歳（98.7%）、16～18歳（97.9%）が他の年齢と比べて高くなっている（図表11-4）。

図表 11-1 犯罪被害類型別、被害からの回復度【SC1/SC3、Q53】

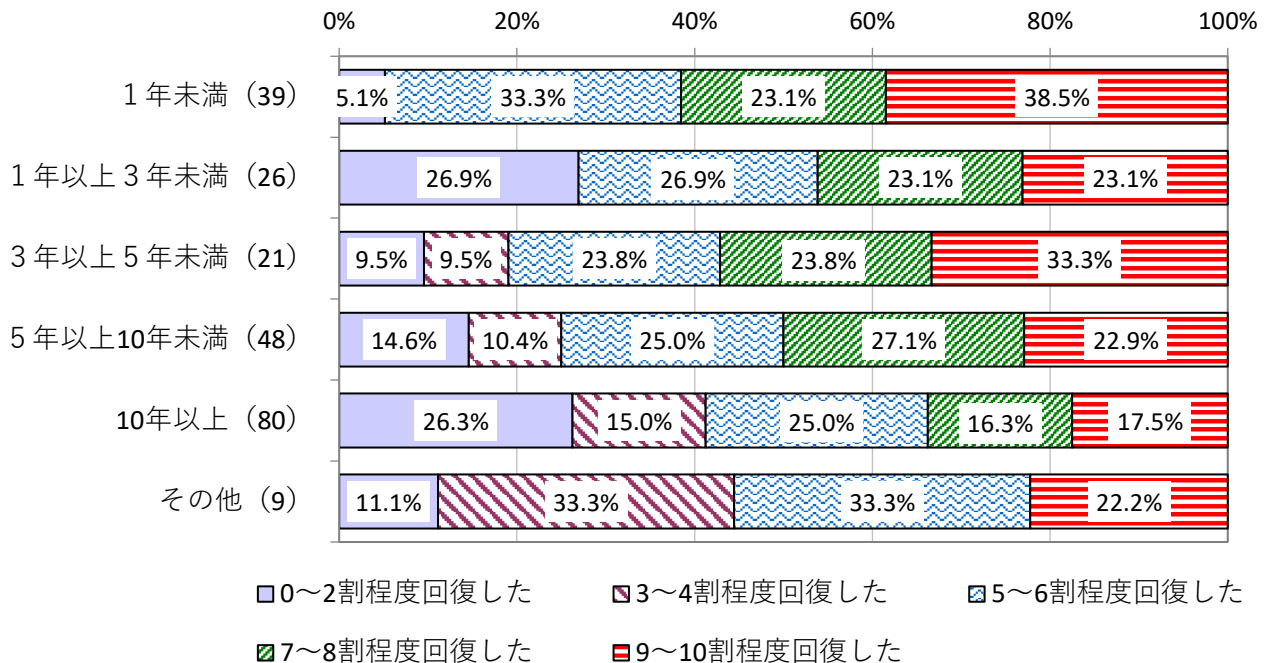


※図表4-20の再掲

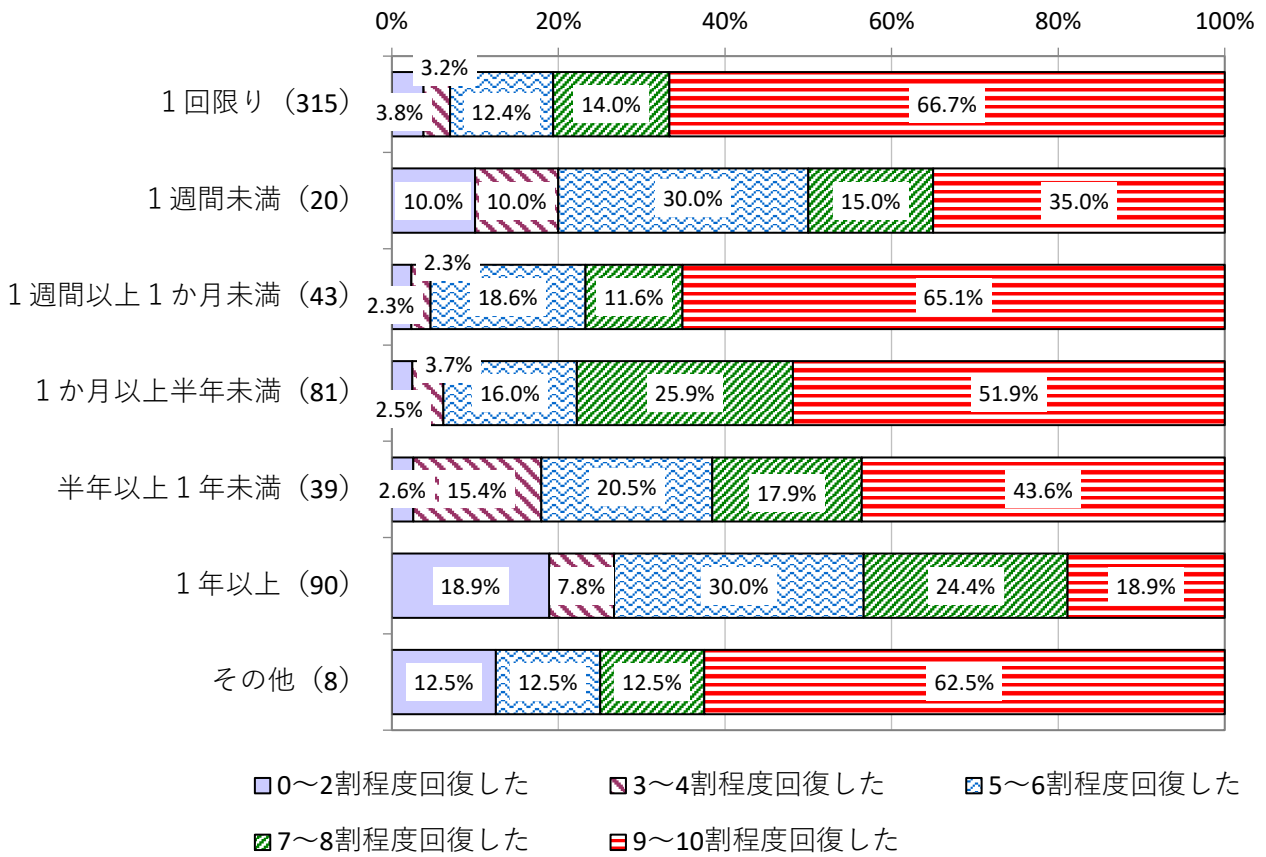


図表 11-2 被害の継続期間別、被害からの回復度【Q5、Q53/Q5-2、Q53】

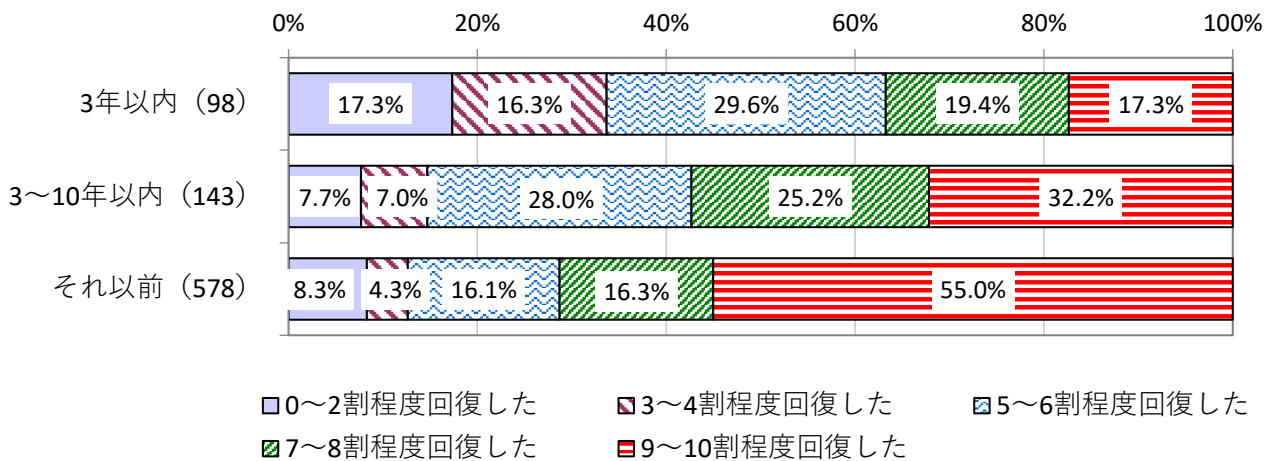
<配偶者暴力、児童虐待>



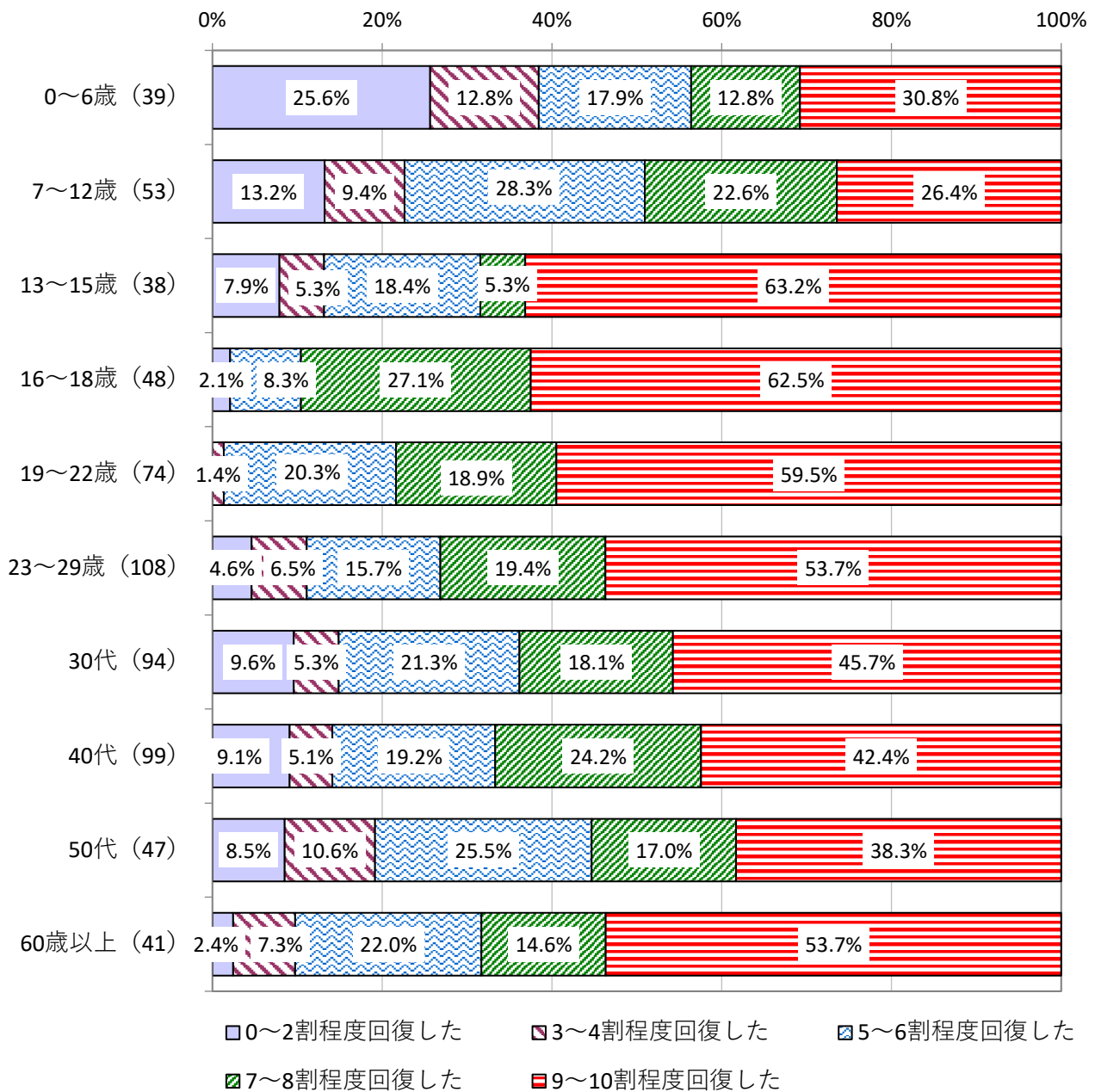
<財産被害、ストーカー、性的な被害、交通事故、暴力被害>



図表 1 1-3 被害の時期別、被害からの回復度【SC2、Q53】



図表 11-4 被害時の年齢別、被害からの回復度【Q1、Q53】



## (2)加害者との関係

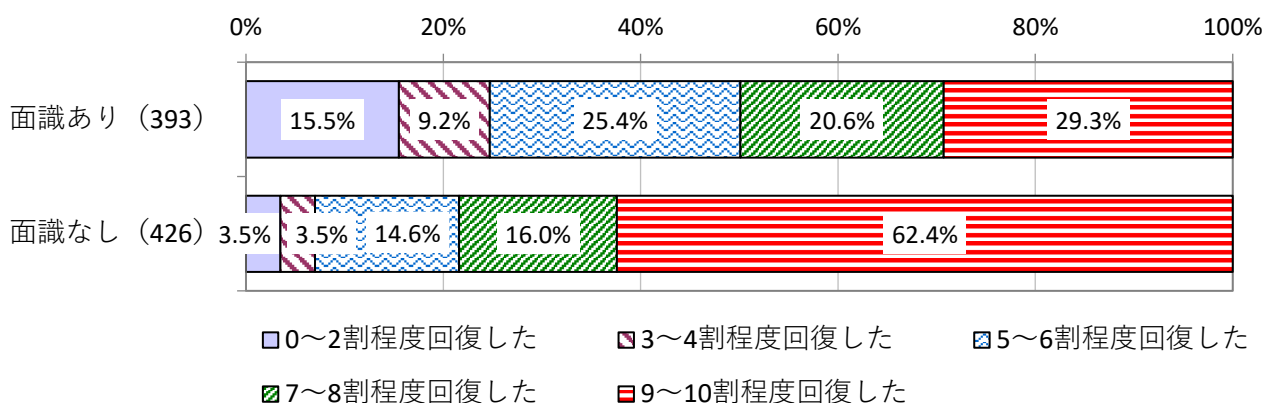
被害からの回復度について、加害者との関係別にみると、半分以上回復したとの回答比率は、加害者が「わからない」(95.0%)、「全く無関係の人、知らない人」「交際相手、元交際相手」(それぞれ93.3%)等において高い。一方、「父」(63.2%)、「母」(66.7%)等では比較的低くなっている(図表11-5)。

加害者との面識の有無別にみると、半分以上回復したとの回答比率は、「面識あり」の場合は75.3%であるのに対し、「面識なし」の場合は93.0%となっている(図表11-6)。

図表 11-5 加害者と被害者の関係別、被害からの回復度【Q3、Q53】

	全体	0～2割程度回復した	3～4割程度回復した	5～6割程度回復した	7～8割程度回復した	9～10割程度回復した
父	68	15 (22.1%)	10 (14.7%)	9 (13.2%)	15 (22.1%)	19 (27.9%)
母	33	9 (27.3%)	2 (6.1%)	13 (39.4%)	6 (18.2%)	3 (9.1%)
継父	4	3 (75.0%)	0 (0.0%)	1 (25.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
継母	5	1 (20.0%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)	2 (40.0%)	0 (0.0%)
母の交際相手	0	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
父の交際相手	2	1 (50.0%)	0 (0.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
兄弟姉妹	10	4 (40.0%)	0 (0.0%)	3 (30.0%)	1 (10.0%)	2 (20.0%)
子	2	1 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (50.0%)
祖父母	4	1 (25.0%)	0 (0.0%)	1 (25.0%)	0 (0.0%)	2 (50.0%)
配偶者、元配偶者	108	12 (11.1%)	11 (10.2%)	29 (26.9%)	25 (23.1%)	31 (28.7%)
交際相手、元交際相手	45	2 (4.4%)	1 (2.2%)	15 (33.3%)	14 (31.1%)	13 (28.9%)
職場、アルバイト先の関係者、 通っていた学校の関係者	53	6 (11.3%)	5 (9.4%)	10 (18.9%)	9 (17.0%)	23 (43.4%)
知人、友人	43	3 (7.0%)	4 (9.3%)	10 (23.3%)	7 (16.3%)	19 (44.2%)
SNSで出会った人	16	3 (18.8%)	2 (12.5%)	7 (43.8%)	2 (12.5%)	2 (12.5%)
全く無関係の人、知らない人	315	8 (2.5%)	13 (4.1%)	36 (11.4%)	55 (17.5%)	203 (64.4%)
わからない	79	3 (3.8%)	1 (1.3%)	17 (21.5%)	7 (8.9%)	51 (64.6%)
その他	32	4 (12.5%)	1 (3.1%)	9 (28.1%)	6 (18.8%)	12 (37.5%)

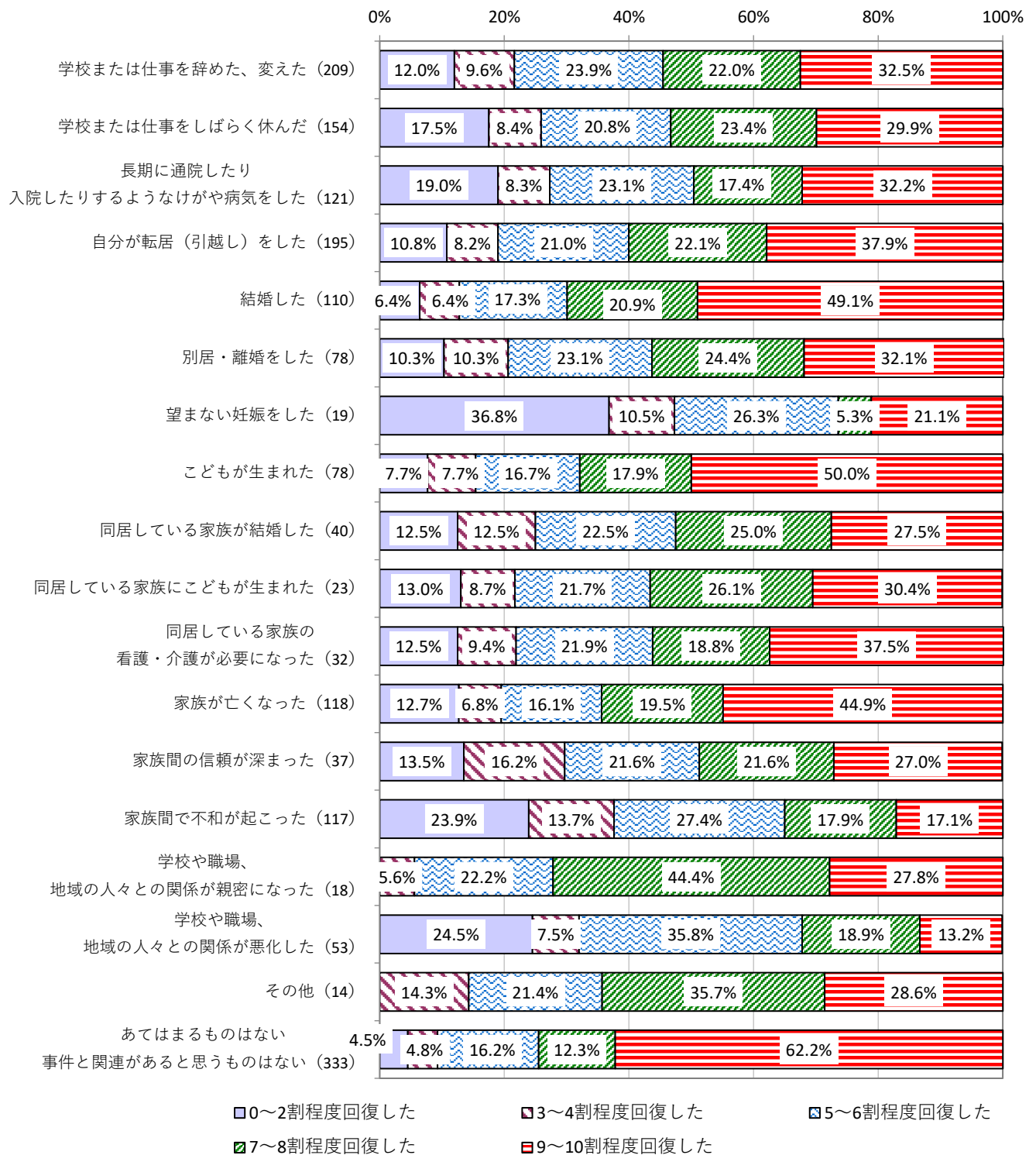
図表 11-6 加害者との面識の有無別、被害からの回復度【Q3、Q53】



### (3)生活上の変化との関係

被害からの回復度について、生活上の変化別にみると、半分以上回復したとの回答比率は、「学校や職場、地域の人々との関係が親密になった」(94.4%)、「結婚した」(87.3%)、「こどもが生まれた」(84.6%)、「自分が転居(引越し)をした」(81.0%)等の場合に高くなっている(図表11-7)。

図表 11-7 生活上の変化別、被害からの回復度【Q50、Q53】

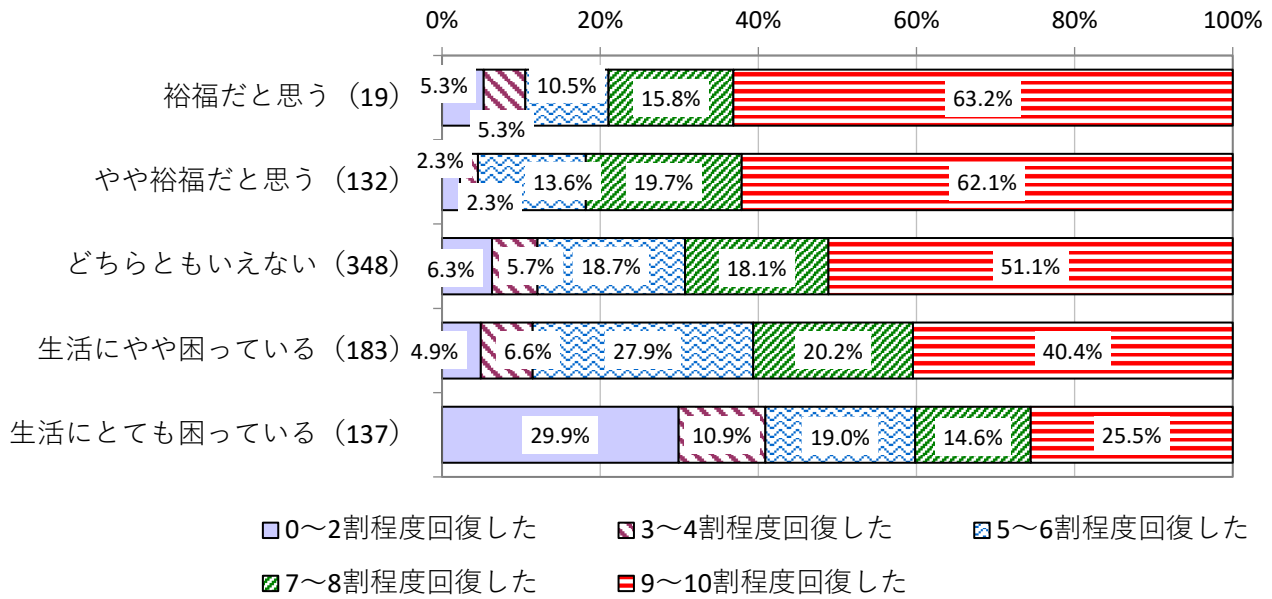


(4) 経済的状況との関係

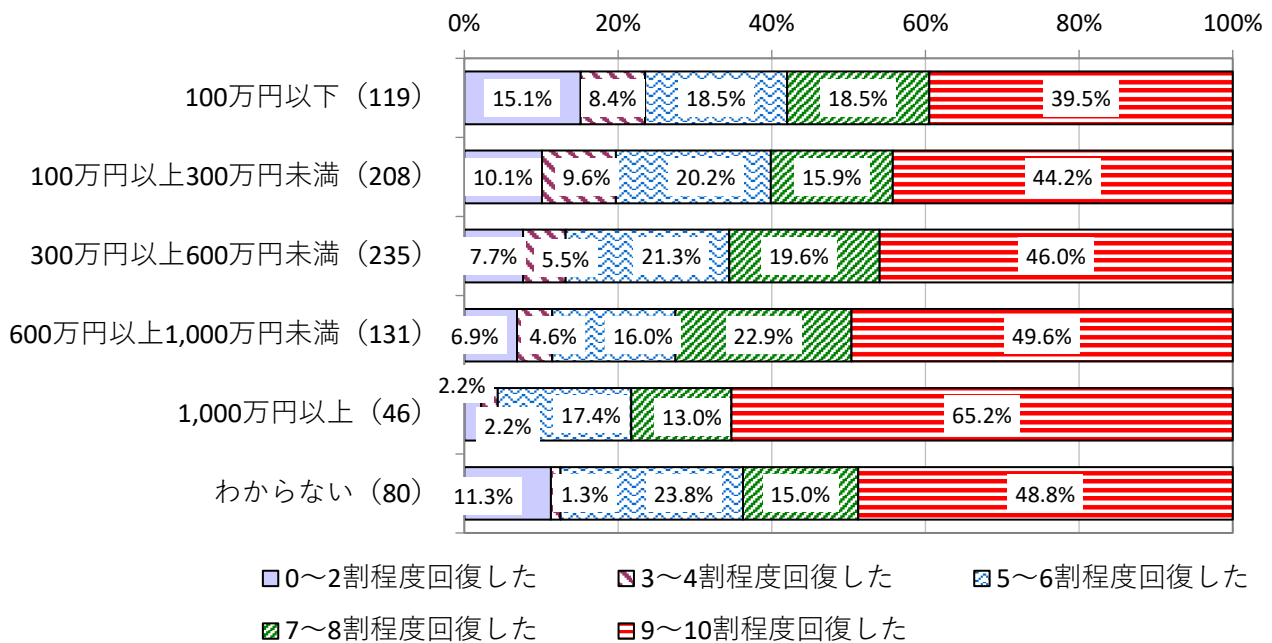
被害からの回復度について、経済的状況に関する意識別にみると、半分以上回復したとの回答比率は、「生活にとっても困っている」場合は59.1%であり、他の場合と比べて低くなっている（図表11-8）。

現在の年収水準（世帯年収）別にみると、半分以上回復したとの回答比率は、「100万円以下」が76.5%であるのに対し、「1,000万円以上」は95.6%と、年収が高くなるにつれて高くなっている（図表11-9）。

図表 11-8 経済的状況に関する意識別、被害からの回復度【Q37、Q53】



図表 11-9 現在の年収水準（世帯年収）別、被害からの回復度【Q39、Q53】



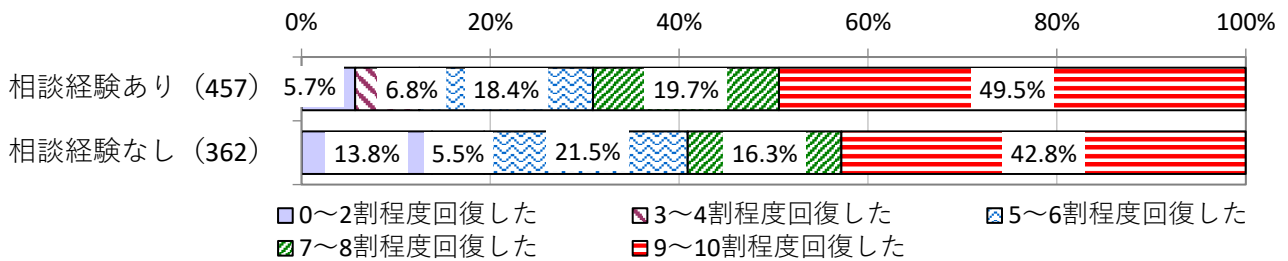
### (5) 周囲の人々や支援者等との接触の関係

被害からの回復度について、被害にあった際の相談の有無別にみると、半分以上回復したとの回答比率は、「相談経験あり」の場合が 87.6%であるのに対し、「相談経験なし」の場合は 80.6%となっている（図表 11-10）。

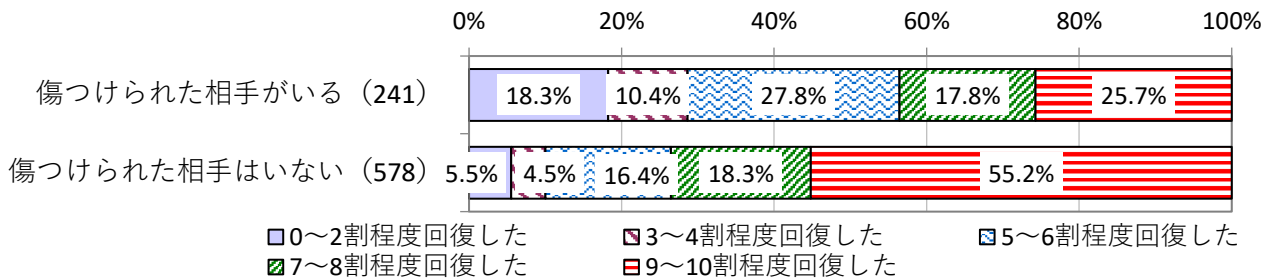
事件後に受けた言動等で傷つけられた経験の有無別にみると、半分以上回復したとの回答比率は、「傷つけられた相手がいる」場合が 71.3%であるのに対し、「傷つけられた相手はいない」場合は 89.9%となっている（図表 11-11）。

事件後に受けた言動等で支えられた経験の有無別にみると、半分以上回復したとの回答比率は、「支えられた相手がいる」場合が 87.6%であるのに対し、「支えられた相手はいない」場合は 81.7%となっている。他方、7割以上回復した（「7～8割程度回復した」と「9～10割程度回復した」の和）との回答比率は、「支えられた相手がいる」場合（63.3%）と「支えられた相手はいない」場合（66.0%）に大きな差異は見受けられない（図表 11-12）。

図表 11-10 相談の有無別、被害からの回復度【SC5、Q53】



図表 11-11 事件後に受けた言動等で傷つけられた経験の有無別、被害からの回復度【Q62、Q53】



図表 11-12 事件後に受けた言動等で支えられた経験の有無別、被害からの回復度【Q62、Q53】

